

里山だより

No.15
2020年秋

樹木の伝染病 ナラ枯れ



2020.9 大阪湾海上交通センター屋上から撮影

今年の夏、夏なのに紅葉したかのような山の景色が数多くみられました。(写真参照)
「ナラ枯れ」という樹木の病気です。ここ石の寝屋緑地内、周辺でも確認できます。
ブナ科の樹木(いわゆるどんぐりの木)が感染する病気です。

古くは江戸時代(1750年頃)の文献にも長野県でナラ枯れの被害があったと記されています。
兵庫県内では2006年ごろまで北部の但馬地方を中心に被害が発生していましたが、
その後どんどん南下、拡大し、2018年ごろには淡路島でも確認されました。(兵庫県農政環境部)

日本の2大森林病がこのナラ枯れとマツ枯れです
原因は、ナラ枯れはカシノナガキクイムシが運ぶナラ菌、マツ枯れはマツノザイセンチュウが病原体です。
ナラ枯れのしくみは右側の表を参照。(六甲砂防事務所HPより引用)
夏、青々と茂っている中でひととき目立つ紅葉(実際は枯れ葉)になるので遠くからみてもすぐわかるようになります。
近くで見ると木の根本に白っぽい粉(木屑、糞などのフラス)がたくさん溜まっています。

ナラ枯れのしくみ(六甲砂防HPより引用)



枯死木は樹齢40年以上の大径木が多く直径10cm程度以下では繁殖しにくい。



ブナ科の実を「どんぐり」といいますが、「栗」はどんぐりとは言いません。栗以外は美味しくないのでほとんどなので「鈍な栗(さえない栗)」ということからどんぐりというようになった説があるようです。